

「元慰安婦に申し訳ない」発言 首相ぶれる

旧日本軍の従軍慰安婦問題をめぐり、安倍晋三首相が2007年の日米首脳会談で「元慰安婦の方々に申し訳ない」と当時のブッシュ米大統領に釈明したとされるやりとりについて、首相自身が発言を否定、一方で発言を認めるような答弁書を閣議決定した。真相がいまいいな現状を批判する声もある。

問題となっているのは第1次安倍内閣時代の07年4月27日、米大統領の別荘キャンプデービッドで行われた首脳会談。首相は会談直後の記者会見で「慰安

07年日米首脳会談

婦の問題について昨日、米国議会で「元慰安婦の方々に申し訳ない。人権侵害のない21世紀にしたい」と述べた。このような話を本日、大統領にも話した」と発言。ブッシュ氏も「安倍首相の謝罪を受け入れる」と語った。

記者会見や会談の概要を掲載した首相官邸や外務省、米印刷局のホームページでも、首脳会談で慰安婦問題を話し合ったとの趣旨が紹介されている。

しかし、首相は今年3月、衆院予算委員会で辻元清美氏（民主）の質問に「事実関係に間違いがあるので、はっきりさせた。大統領との会談で、この問題は全く出ておりません」と繰り返した。

一方で、これを受けて辻元氏が提出した質問主意書に対して今月17日、会談での発言を認めたと受け取れる答弁書を閣議決定。

会では、神本美恵子氏（民主）の質問に再び「首脳会談では申し上げていない」と強調、「申し訳ない」との気持ちは、記者会見で聞かれたので答えた」と述べた。

元慰安婦を被害者として支援する市民団体、日本軍「慰安婦」問題解決全国行動の梁澄子共同代表は「安倍首相は慰安婦問題の責任を認めたくない。だからこんなことが起きる。そもそも米国の顔色をうかがって、被害者には直接謝らないなんて茶番です」と不信感を募らせている。

（編集委員 往住嘉文）

否定↓認める答弁書閣議決定↓再び否定